



第16号 平成30年4月発行

〒669-2321

兵庫県篠山市黒岡5番地

TEL 079-552-1181 (代表)

FAX 079-552-5343 (代表)

かけはし

◆平成30年度 新着任医師及び退職医師のご紹介◆

平成30年4月1日付で以下11名の医師が着任いたしました。

内科	堀尾 大介	宮本 優帆	中濱 義人	木村 稚菜
外科	嶋田 泰尚			
整形外科	柏 薫里	中村 吉宏	山浦 鉄人	
リハビリテーション科	土田 直樹			
産婦人科	岩田 隆一			
麻酔科	中野 範			



また、平成29年3月31日付で以下10名の医師が退職いたしました。

内科	山崎 博充	奥川 卓也	山本 清子	中野 康佑
外科	平田 晃弘			
整形外科	大寺 秀介	楠川 智之		
リハビリテーション科	安川 俊樹			
産婦人科	小柄 美友			
麻酔科	恒遠 剛示			



外来診療の担当医につきましては、ささやま医療センターホームページからご確認ください。

◆健診センターの開設について◆

平成30年4月1日より健診センターを開設いたしました。初期の生活習慣病はほとんど自覚症状がなく、知らず知らずのうちに進行していきますが、定期的な健康診断の受診により、潜在的な病気の発見や将来の生活習慣病になりやすいリスクがあるか確認することができます。

当健診センターは健診担当のコンシェルジュが付き添いご案内いたしますので、次の検査に迷うことがない、生活習慣病に必要な項目を1日で検査することができる等の特徴があります。万が一疾患が発見された場合でも、ささやま医療センターと連携し、受診することが可能です。

全国健康保険協会（協会けんぽ）生活習慣病予防健診や特定健康診査をはじめ、企業健診等様々な健診に対応しております。

お申し込みやお問い合わせにつきましては、ささやま医療センターのホームページをご覧ください。





◆ささやま医療センターリハビリのご紹介◆

1. 回復期リハビリテーション病棟

当院では回復期リハビリテーション病棟で 365 日リハビリテーションを行っています。

脳血管疾患や大腿骨骨折、脊髄損傷などの他、外科の手術後や肺炎などの治療による安静によって体力が低下した方に対し、集中的にリハビリテーションを行います。一般の病棟よりも療法士による一日に行うリハビリテーション訓練時間がおおよそ 2～3 時間と多く、訓練室で行われる訓練を病棟での生活活動にもつなげられるリハビリテーションを行います。対象となる疾患でリハビリテーションができる状態にあり、自宅復帰を目標にしている方が対象となります。

2. ロボットリハビリテーション

当院では、2015 年 12 月より歩行リハビリテーション支援ロボットを導入して、脳卒中片麻痺の方の歩行能力の向上を目指して取り組んでいます。導入している歩行練習アシスト（gait exercise assist robot: GEAR）は、トヨタ自動車パートナーロボット部と藤田保健衛生大学が共同で開発した練習支援型リハビリテーションロボットです。効果としては、従来装具を使用するよりも脳卒中片麻痺の方の歩行自立度が効率よく改善する可能性があるかとされています。



3. ボツリヌス（ボトックス）療法

脳卒中でよくみられる筋肉が緊張しすぎて手足が動きにくくなったり、勝手に動いてしまう状態である痙縮が、リハビリテーションの障害となることもあるので、上手くりハビリテーションを進めるためには、痙縮に対する効果的な治療が必要となります。ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌（食中毒の原因菌）が作り出す天然のたんぱく質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬を筋肉内に注射し筋肉の緊張を和らげる治療法です。また、ボツリヌス療法後に集中的なリハビリテーションを併用することで、これまで筋肉の緊張のためにできなかった動作ができるようになったり、無理な力が入らずによりスムーズな動作ができるようになる可能性があります。当院でも、ボツリヌス療法後は、外来だけでなく入院によるリハビリテーションを行うことがあります。



4. ドライブシミュレーター

当院では、HONDA の開発したドライブシミュレーターで 3 つの画面とアクセル・ブレーキを用いて運転機能の確認、検査を行うことが可能です。実車評価前に自身の自動車運転に関する問題点を把握し、対策や改善すべき箇所に気付くことができます。対象疾患は、脳卒中、頭部外傷などです。模擬体験により机上評価では測定できない運転技能と高次脳機能障害の明確化が期待できます。



5. 在宅支援

当院では、在宅生活に円滑に移行できるよう、退院前には住宅改修の提案、退院後の支援を行うケアマネジャーや介護サービス事業所との連携を行っています。また、復職を目指す方は職場や支援機関との連携を図っています。さらに、リハビリテーション科医師の外来診療や訪問診療、訪問リハビリテーションや併設の老人保健施設（通所リハビリテーション）で退院後の生活を支援しています。

◆ヘリポートについて◆

平成 30 年度より、ささやま医療センター横のヘリポートよりドクターヘリの離着陸が可能となりました。

今年度からの運用を目指して、昨年度に篠山市がささやま医療センター横の駐車場を芝生化してヘリポートの整備を行いました。これまでは重篤な患者さんをドクターヘリで別の医療機関に搬送する際、救急車で最寄りの離着陸場まで運んでいましたが、敷地内に発着拠点を整備することで、患者さんの迅速な搬送が可能となります。

篠山市内には現在 24 カ所の離着陸場があり、25 箇所目の離着陸場となります。



◆病棟機能の変更について◆

平成 30 年 3 月 31 日まで、3 階西病棟の一部を地域包括ケア病床として運用してまいりましたが、4 月 1 日より、3 階東病棟を地域包括ケア病棟として開設いたしました。これにより地域包括ケア病床が 28 床から 44 床へ増床されます。地域包括ケア病床は急性期治療を終了したあとも在宅療養に切り替えることに不安がある方、もう少し治療経過の観察が必要な方等を対象としています。また、慢性疾患や障害をかかえて地域で療養生活を送っていらっしゃる方々の症状が一時的に悪化した場合の入院も受け入れています。

次回発行予定 平成 30 年 10 月